

# 衣服を大切にする力を育む授業

—基礎的な知識と技術を用いて作る諸作品—

細江千尋

## 1. はじめに

中学校で家庭科の授業を行う中で、授業時間数が少ない点や、中学生は小学校で学習した手縫いの技能を忘れていることが多く、復習の必要があると感じてきた。そこで小学校で学習する技術を短時間で復習できる縫製教材と、家庭で実践する意欲を高める授業の提案を行う。

## 2. オールインワン縫製教材 手縫いの練習布

本研究室では、小学生が確実に裁縫の技術を習得できることを目指し、オールインワン縫製教材を開発した。この教材の手縫い練習布を用いた授業を行い、練習量や指導法について検討する。

### 2.1 授業実践とアンケート調査

平成 25 年、名古屋市立駒方中学校の第 1 学年で授業実践とアンケート調査を行った。

### 2.2 結果と考察

授業実践では教材が机に収まらず、一斉に作業ができなかった。短い距離を 2 回練習できるという練習形式は、進度の遅い生徒は 1 回、進度の早い生徒は 2 回、さらに早い生徒は解いて縫い直すことができ、それぞれの進度に対応できた。練習布の完了には約 6 時間と補習 2 回を要し、計画より時間がかかった。

## 3. ポケットティッシュケース

ポケットティッシュケースは縦 14 cm、横 30 cm の布で製作でき、教室の机の上に収まる。小学校での習得度が低いかがり縫いは取り入れず、短時間での完了を図った。

### 3.1 授業実践とアンケート調査

平成 26 年、同校の第 1 学年で授業実践と、アンケート調査を行った。生徒の意欲や作品の完成度を高めるため、評価や助言を生徒に伝え、縫い直しを可能とした。

### 3.2 結果と考察

授業 3 時間と補習 1 回で作品は完成できた。しかしかがり縫いを省いたため、内容が少ないように感じられた。多くの男子生徒はポケットティッシュケースの使用に抵抗があるようだった。

## 4. アームカバー

調理実習、美術、書道の授業で男女とも活用できると考え選択した。縦 20 cm~25 cm (好みに

合わせて調整)、横 40 cmの布で製作でき、教室の机の上に収まる。製作工程にかがり縫いとミシン縫いも取り入れ、各技能の特徴を理解できると考えた。

#### 4.1 授業実践とアンケート調査

平成 27 年、同校の第 1 学年で授業実践とアンケート調査を行った。授業実践では評価と助言を生徒に伝え、縫い直しを認めた。実践から半年後のアンケート調査において自己評価の高い生徒で、自己評価と教師の評価の関係を探る。

#### 4.2 結果と考察

表 1 『できる』と答えた生徒の割合の推移 (%)

授業 6 時間と補習 1 回で作品が完成し作品を腕につけて喜ぶ様子が見られた。実践前、実践後、半年後に行ったアンケートの結果 (表 1) より、実践後には全項目について『できる』と答えた生徒が 90%を上回った。しかし半年後には本返し縫い、半返し縫い、かがり縫いの数値は大きく低下した。習得した知識や技能を定着させるという点で課題が残った。

質問項目	実践前	実践後	半年後
玉結びはできますか	92.6	98.6	98.6
玉留めはできますか	90.1	92.9	94.6
並縫いはできますか	95.1	98.6	100.0
本返し縫いはできますか	51.2	95.7	78.4
半返し縫いはできますか	40.7	95.7	70.3
かがり縫いはできますか	39.5	91.4	64.9

半年後のアンケート調査で自己評価が高い生徒での抽出実験では、並縫いは生徒の自己評価と教師の評価が一致しやすく、かがり縫いは生徒の評価が高くなりやすい傾向が見られた。

### 5. 衣服の補修をしよう

技能の定着には家庭での実践が不可欠である。家庭での実践への意欲を高めるため、アームカバー製作の前に『衣服の補修をしよう』という授業を行った。ズボンの裾に見立てた実寸大の模型を用い、裾をほつれさせ、適切な補修方法についてグループで検討し実践に取り組みさせた。

#### 5.1 授業実践とアンケート調査

平成 28 年、名古屋市立駒方中学校の第 1 学年で授業実践とアンケート調査を行った。

#### 5.2 結果と考察

『衣服の補修をしよう』では、最初は補修において丈夫さを重視していた生徒たちが、意見交換を通して、見栄え良く適切な方法で補修する必要性を理解できた。アームカバー製作や家庭での実践への意欲を高め、アームカバー製作における技能の習得度を上げることができた。しかし半年後に行ったアンケートでは縫い方の用途や特徴についての理解度は低下していた。

### 6. 今後の課題

生徒の自己評価と、教師の評価の関係を探るため、自己評価の高い生徒以外でも実験を重ねる必要がある。また『衣服の補修をしよう』の授業で、ズボンの裾に加え、ポケットやカバンの持ち手なども加えることで、より各縫い方の特徴や用途を理解させることができると考える。

(指導教員：加藤祥子 青木香保里)